鴨長明

　ゆくの流れは絶えずして、しかも、もとの水にあらず。みにぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとまりたるなし。にある人とと、またかくのごとし。

　たましきののうちに、を並べ、を争る、高き、いやしき、人のは、を経てきせぬものなれど、これをまことかと尋ぬれば、しありしはなり。は焼けて今年作れり。或は亡びてとなる。住む人もこれに同じ。所も変らず、人も多かれど、いにし見し人は、がに、わかにひとりふたりなり。に死に、にるなら、た水の泡にぞ似たりける。

あるい

－33－